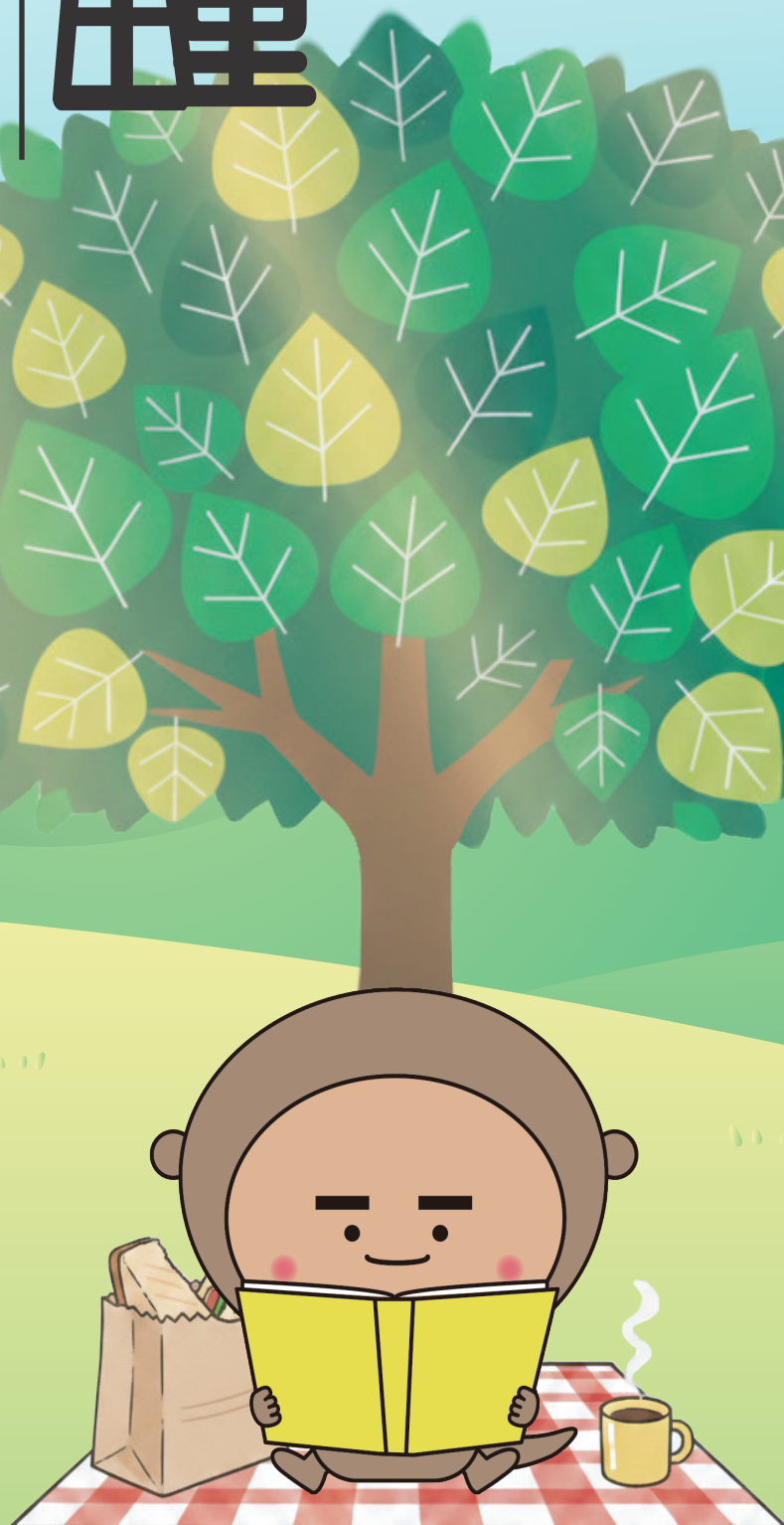


葛野 の鐘

vol. 33
2026.APRIL

館長からのメッセージ
わたしと図書館
学生の活動
施設紹介
わたしのすすめる1冊
わたしの本棚
メディアコーナー紹介
貸出ランキング



館長からのメッセージ

ビブリオバトル

図書館長に就任して以来、できるだけ多くの方に図書館を使っていたきたい、そして一人でも多くの人に、読書の楽しみやよろこびを知ってもらえたらいいなあ、と考える日々です。

電車通勤の車内を見渡すと、スマートフォンを楽しんでいる方がほとんどですが、ときどき文庫本を読んでいる方や、勉強の本を開いている学生さんや社会人のみなさんの姿を見かけると、なぜか少しうれしくなります。

いつから読書好きになったのか、はっきりとは覚えていません。ただ、中学生の頃には、ノンフィクションの歴史書や近現代の伝記を読み始めていた記憶があります。当時通っていた塾の塾長、理科実験教育で知られた「ヒゲ先生」の部屋に、そうした本がずらりと並んでいるのを見つけ、たびたび借りに行っていました。「君、歴史好きか？」の一言から始まって、本の中身だけでなく、歴史そのものを語ってくれた時間は、今思えばとてもぜいたくな体験でした。

その先生の年齢に近づきつつある今、人に本を勧めることの難しさを感じています。自分の読書の幅は案外せまいし、「これはいいよ」と言われると、つい「自分で探したい」と思ってしまう性格も災いしているのかもしれない。図書館報「葛野の鐘（第32号）」に私が書いた「わたしのすすめる一冊」も、万人受けするかどうかは、正直わかりません。もっとも、本との出会いは、少し偶然なぐらいが頃加減なのかもしれません。

そんなときに会ったのが「ビブリオバトル」です。好きな本を持ち寄り、紹介し合い、「読んでみたい」と思った一冊を投票で決める書評ゲームです。人の話を聞き、新しい本、新しいジャンルに出会う魅力があるようです。文部科学省の「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」にも、「子どもの読書への関心を高める取組」の一つとして位置づけられています。この原稿を投稿した翌週に地元で開催される回を観戦したいと思っています。読書好きたちは、どんなふうにも本を語るのでしょうか。もしかすると、そこで聞いた一言が、次の一冊への小さなきっかけになるのかもしれない。

この紙面を閉じたあと、ふと本を手に取りたくなったなら、それだけで、この文章は役目を果たしたのだと思っています。

いなば ひろあき

図書館長 稲葉 裕明

歯科衛生学科

寄贈図書リスト

現・旧教職員ほか(2025年1月～12月受入寄贈者の五十音順・敬称略)

✦ 発達障害の僕が輝ける場所をみつけれられた理由	上田 修三
✦ Black Jack (秋田文庫)	楠 香織
✦ 保育者のための法学・憲法入門	河野 和清
✦ 大学4年間の社会心理学が10時間でざっと学べる	小山 理子
✦ SELを成功に導くための五つの要素：先生と生徒のためのアクティビティー集	全 京和
✦ 社会性の発達心理学	竹西 正典
✦ 発達障害 (文春新書:1123)	田中 希世子
✦ マインドフルネス・ノート：心のモヤモヤを書いて消す	谷本 拓郎
✦ 生成AIパスポート公式テキスト 第2版	土居 淳子
✦ 学校再発見!：子どもの生活の場をつくる	徳田 仁子
✦ クリティカル・パス：宇宙船地球号のデザインサイエンス革命：新装版	羽深 太郎
✦ 手術看護1UP：現役オペナースが教える！一皮むける現場力アップ本	番所 道代

この他にも学外の方から多数の図書を御寄贈いただきました。
改めて御礼申し上げます。

わたしと図書館

LIBRARY

検索の先にある「出会い」を求めて

今、改めて「私と図書館」というテーマに向き合うと、真っ先に浮かぶのは看護学生時代のほろ苦い後悔です。当時の私は、日々の講義や実習に追われ、図書館をただ「最短距離で答えを探す場所」としてしか使っていませんでした。もしあの頃、今の学生さんたちのように図書館を自分の「居場所」としてもっと活用していれば、学びの景色はさらに深まっていたらと思うのです。

その意識を大きく変えてくれたのは、二つの出会いでした。一つはアメリカでの経験です。現地の学生たちがソファでくつろぎ、コーヒーを片手に生活の一部として図書館という空間を楽しんでいる姿は、効率ばかりを求めていた私には新鮮な驚きでした。そしてもう一つは、大学院時代の指導教官の言葉です。「検索してすぐに見つけるだけでなく、書架をぶらぶら歩いて、ふと目に飛び込んでくる一冊を大切に下さい」。効率性とは対極にある、知的な冒険の楽しさを教わった気がします。

この「偶然の出会い」の豊かさは、子育て中にも実感しました。地域の図書館で子どもと一緒に「今日はどんな本に出会えるかな」と棚を巡り、一緒に本を探す時間は、日々の忙しさを忘れて穏やかな気持ちに戻れる、貴重な空間でした。

現代は、指先一つで正解に辿り着ける便利な時代です。だからこそ、目的の本以外にもふと目が留まる、そんな余白のある空間が私たちの心を豊かにしてくれるのではないのでしょうか。本学の図書館という贅沢な環境が、皆さんにとっても予期せぬ発見に胸を躍らせる、心安らぐ居場所になることを願っています。



はたなか かおり
畠中 香織 先生
 看護学科



図書館の思い出

私は本が好きです。しかし振り返ってみると、子ども時代の図書館の記憶はほとんどなく、それが少し心残りです。学校や地域の図書館に通っていたはずなのに、具体的な情景が思い浮かばないのは不思議な気持ちです。代わりに鮮明に思い出すのは、大学院生時代の図書館です。論文執筆や学会発表の準備のために書架を巡り、必要な文献を探して何時間も過ごしました。夏休みの帰省中でさえ近隣の大学図書館に通い、静かな閲覧室で資料に向き合いました。当時は受付に名前を書くだけで他大学の図書館にも入館でき、そのおらかな雰囲気は何度も助けられました。

いまはWeb検索や電子書籍、電子雑誌の充実によって、自宅や研究室にいながら多くの情報にアクセスできる便利な時代です。オープンアクセスの論文も増え、研究環境は大きく変わりました。それでも、研究室を出て季節の草花に目を留めながら図書館へ向かった道のりや、自動ドアの向こうに広がる本の世界に胸を躍らせた感覚は、かけがえのない思い出です。静かな空間で「読みたい一冊」に没頭し、窓の外の大木や鳥に心を和ませた時間は、今も鮮やかによみがえります。

忙しい毎日ですが、いつかまたあのような時間をゆっくり味わいたいと思うだけで、心が温かくなります。機能や名称が変わる時代であっても、図書館はこれからも人の心を静かに支える「図書館」であり続けてほしいと願っています。



もりもと けいこ
森本 恵子 先生
 健康栄養学科
 健康スポーツ栄養専攻



学生の活動

オープンライブラリーの絵本の読み聞かせで学生が活躍しました。

5月25日「光華ワクワク×健やかフェス」オープンライブラリーで読み聞かせイベントを開催しました。認定絵本士を目指すこども教育学科の学生3人がオープンニングで指遊びや自分たちが考えたゲームで場を盛り上げ、こどもたちの気持ちを引き付けた後、本番！絵本の読み聞かせを行いました。読み始めていくうち、こどもたちは絵本の世界に目を輝かせながらどんどん入っていきました。学生にとっては準備段階から当日のオープンニング、読み聞かせ、こどもたちとのふれあいや終了後の声掛けなど、貴重な実践の場になりました。



ラーニングコミュニティ、通称『学Booo(まなぶー)』は、自分の興味や関心のあるテーマを選択して学ぶ、自由参加型の学習グループです。

本×図書館サークル「ビブリオフィリア」

図書館や本を自由に楽しむことをコンセプトに真宗文化研究所の太田路子先生と本好きの学生たちで活動しました。

5月14日

キックオフミーティング

5月28日 / 7月2日

おすすめの本を紹介しよう！

それぞれが持ち寄った本の感想やエピソードをシェアしました。

6月18日 / 7月16日

手作り

昨年度デザインしたマープリングにデコレイトして世界に一つだけの素敵なオリジナル葉を作りました。



7月12日

「学生選書ツアー」に参加しました

有志の学生が実際に書店を訪れ、図書館に置きたい本を直接選ぶ企画です。書店内の本の世界へ一斉に入って、真剣に選びました。選んだジャンルは小説から実用書まで幅広いです。購入した本はブックフェアを開催した後、学生選書コーナーに並んでいます。

11月25日

仕掛け絵本を見に行こう！

普段閲覧室にない仕掛け絵本を書庫に実際探しに行きました。絵本を開くと立体的で色鮮やかなページが目飛び込み、様々な仕掛けを動かしながら楽しめました。



3月7日

本にゆかりのある場所を巡る一日を過ごしました

最初に絵本の専門店「絵本カフェ Mébaé」を訪れ国内外のさまざまな絵本を自由に手に取って楽しみました。店主の方に珍しい絵本を見せてもらうこともできました。



その次は「KINDER CAFE」。絵本や雑貨が並ぶ一室のような空間でランチをしながら、好きな本の話や映画のことなど、自然と会話も弾みました。

午後は、「余波舎(なごろしゃ)」へ。アンティークな家具もある落ち着いたたたずまいに新刊書と古書が並びジャズ音楽が流れています。思いがけない本との出会いがありました。



最後に訪れたのは「京都国際マンガミュージアム」。歴史を感じる建物の中、自由に漫画を読んだり、展示を見たりして思い思いに漫画の世界を満喫しました。本、絵本、漫画と、様々な「読むもの」に触れることができた一日でした。

3月16日

パンケーキに絵本のキャラクターを描いてみよう！

絵本を見ながら、登場しているキャラクターをパンケーキで作りました。みんなで楽しくおしゃべりしながら調理しました。出来上がったパンケーキは想像以上の出来栄で、クリエイティブな発想に感動しました。



【卒業生の声 / Oさん】



活動を通して、他学科の先輩や同級生、後輩と知り合う機会となり知人や友人が増えました。本に興味を持つ仲間が集い、同じ話題を共有できる空間は、居心地がよくわたくしにとってよき居場所となっていました。また、行けるときに行くというスタイルも大学生ならでは、気楽に参加することができました。特に選書ツアーでは自分の好きな本を図書館に置いてもらえてありがたかったです。

図書館 施設紹介

1階くつろぎスペース



勉強の合間に一息ついたり、図書館でゆっくり自分の時間を楽しみたい、そんな人のためのスペースです。靴を脱いで足を自由にしたら、気持ちも体もリラックス。癒しのふかふかクッションを抱えてくつろいでみてください。

人気No.1のソファを
リニューアルしました！

このほか1階には、話し合いをしながらのグループワークにぴったりなアクティブラーニングスペースもあります。



各階にはいつでも自由に使えるブランケットもあります。



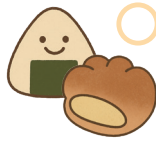
植物にも癒されちゃいますよ～

飲食ルール

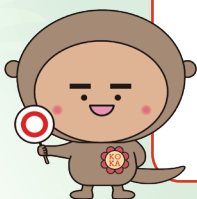
図書館では飲み物についてはどのような形状のものでも持ち込みが可能です(カップやパックの飲み物も可)。ただし軽食ができるのは**1階フロアのみ**です。その中でも**OKなもの**、**NGなもの**があります。

館内で食べてよいもの

- ・おにぎり
- ・パン
- ・菓子のみ



菓子は、飴・チョコレートなど一口大程度でこぼれにくいもの



NGなもの

- ・弁当
- ・麺類
- ・汁物・スープ類
- ・匂いのきついもの
(ピザ、フライドチキン、フライドポテト など)
- ・プレートにのっているもの



みなさんが心地よく図書館を利用していただくためのルールです。ご協力をお願いします。

わたしのすすめる1冊

『心の傷を癒すということ
—大災害と心のケア—』

「心の傷を癒すということ」は、精神医学や心理学に任せてすむことではない。それは社会のあり方として、今を生きる私たち全員に問われていることなのである。」

本文中の一節です。著者の安克昌氏は精神科医であり、1995年の阪神・淡路大震災において被災した人々の心に寄り添い続けた人です。その安克昌氏が残したこの一節は、あの未曾有の大災害から30年以上経った現代の私たちに深く突き刺さるものであり、「寄り添う」という言葉の本当の意味を考えさせるものです。なぜ、この言葉が私たちに深く突き刺さるのでしょうか。それは、著者が地震の直後から神戸の街を歩き、被災者の「心の叫び」を聴き、過酷な現場では教科書通りの治療が通用しないことを自分自身のからだで感じ取ったからです。本書では、震災後数ヶ月を経て現れる「PTSD」や「サバイバーズ・ギルト（生き残ったことへの罪悪感）」までを克明に描いています。そして、心のケアとは特別な技術を施すことではなく、相手の痛みを自分自身の痛みとして感じようとする「共感の姿勢」であることを教えてくれる1冊です。効率や正解が求められていたこれまでの社会において、「待つ」という時間は、一見遠回りに見えるかもしれませんが、しかし、他者の孤独に触れ、絶望の淵にある人を支えるために何が必要なのでしょうか。その普遍的な問いに対する答えが綴られています。39歳という若さで亡くなった安克昌氏が命を削って遺したメッセージは、刊行から時を経てもなお、災害大国に生きる私たちの指針となるはずです。

『専門知をやさしく、深く伝える
『家族の練習問題 —木陰の物語—』団士郎』

20年以上連載が続いている「木陰の物語」。作者の団士郎先生は福祉分野での実践と同時に、漫画家として20代から活動されています。この「木陰の物語」が興味深いのは「月刊福祉」など複数の雑誌等で同時並行の形で連載継続し、現在も連載中であることです。内容は、支援の話や家族の話を取り上げ、言葉と漫画を用いて表現され、読者に考えてもらうのが特徴です。「木陰の物語」を数話納めたのが「家族の練習問題」で現在9巻まで発売され、支援の現場、子育ての現場、幼稚園などで広く愛読され、漫画展、漫画を用いた研修等も各地で行われています。

漫画を用いて医療分野を取り上げる活動は「グラフィック・メディスン」と呼ばれています。手塚治虫氏は医師免許を持ち、漫画「ブラックジャック」でその知識も活かしました。専門家であり、なおかつ漫画も描く人は医療に限らず各領域に存在し、その専門領域を題材にグラフィックも用いて伝え、表現する取り組みです。フランスにはパボさんという児童支援の仕事をして漫画家である方もいます。教え子にも高齢者福祉施設で働き、漫画を含んだ本を出版している人もいます。こうした出版物は、専門教育の中でも、各所で取り上げられ、難解な専門分野教育の魅力を広げています。あなたが学ぶ領域にもこうした本もあるかもしれません。ぜひ探してみてください。いつの間にか考える力、新たな視点を得る「家族の練習問題—木陰の物語—」、ぜひご一読を。



『心の傷を癒すということ：
大災害と心のケア』
(新增補版)
安克昌 著
作品社
3階閲覧室
493.74 / AKa / (sh)

くどう けんじ
工藤 健司 先生
こども教育学科



『家族の練習問題：
木陰の物語』
団士郎 著
ホンブロック
2階閲覧室
367.3 S / DaSh / 1(2)

家族の練習問題
-木陰の物語- 団士郎

ちば あきお
千葉 晃央 先生
福祉リハビリテーション学科 社会福祉専攻



わたしの本棚

MY BOOKS

絵本／ミステリー



『100万回生きたねこ』
佐野洋子 作・絵

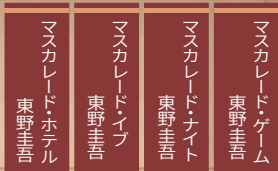
講談社
726.5/SaYo
1階絵本コーナー

健康栄養学科
なかぎ なおこ
中木 直子 先生
2025年5月～9月



『変な絵』
雨穴 著

双葉社
913.6/Uket
1階学生選書コーナー



『ガネーシャと夢を食べるバク』
(夢をかなえるゾウ) 水野敬也 著

文響社
913.6/MiKe/0 3階閲覧室



◀『わたしの本棚』
紹介動画は
こちら



絵本／歴史／民俗学



『どうぞのいす』
香山美子 作 / 柿山幸造 絵

ひさかたチャイルド
726.5/KoYo 1階絵本コーナー

歯科衛生学科
いなば ひろあき
稲葉 裕明 先生
2025年9月～
2026年3月



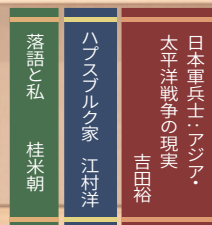
『大阪アースダイバー』
中沢新一 著・写真

講談社
216.3/NaSh 2階閲覧室



『一外交官の見た明治維新』(講談社学術文庫)
アーネスト・メイスン・サトウ 著 / 鈴木悠 訳

講談社
文庫 3階文庫コーナー



メディアコーナー (DVD) 紹介

DVD観ませんか？

図書館には、本以外にもDVDやCD-ROMといった視聴覚資料もあることをご存知でしょうか。みなさんの学習に役立つDVDはもちろんのこと、映画のDVDも数多く所蔵しています。

図書館スタッフが
ピックアップ！



2026年、1階アクティブラーニング
スペースに、DVD を展示しています！

現在は、ジブリ作品、ディズニー作品、
ハリー・ポッター全シリーズが
並んでいます。
「となりのトトロ」「千と千尋の神隠し」、
「アラジン」「美女と野獣」など

他の作品は、カウンター前にリストがあります
ので、ぜひチェックしてみてください！

★1回の利用時間は2時間 (状況によっては延長可)

1人で視聴する場合：1階のブース、2～10人で視聴する場合：2階と3階のグループ閲覧室

※DVDは館外に持ち出すことはできません。図書館内でのみ視聴可能です。

DVD視聴方法

①カウンターへ
観たいDVDを
持って行く



予約も
できるよ！

②申込用紙を
記入する
※カウンター前にあります



③学生証と引き換えに
指定されたブースの
リモコンとヘッドホン
を受け取って視聴開始



図書館貸出ランキング

みんなはどんな本を読んでいたの？今回は小説のトップ3を紹介します！

1位



汝、星のごとく
 凧良ゆう 著
 講談社
 3階閲覧室
 913.6/NaYu

2位



星を編む
 凧良ゆう 著
 講談社
 3階閲覧室
 913.6/NaYu

3位



近畿地方のある場所
 について
 背筋 著
 KADOKAWA
 1階学生選書コーナー
 913.6 S/Sesu

1位と2位は凧良ゆうの作品でした。『汝、星のごとく』は2023年の本屋大賞第1位に選ばれた人気の作品です。続編として書かれた『星を編む』も図書館では2位でランクイン。今年の秋には映画も公開されるとのことで、事前に予習してみるのはいかがでしょうか。そのほかにも図書館では『流浪の月』『滅びの前のシャングリラ』を所蔵しています。

3位の背筋の『近畿地方のある場所について』は「このホラーがすごい！」の2024年版国内編1位になった作品です。映画化もされて話題になりました。見られた方も多いのではないのでしょうか？この本には付録として「取材資料」がついています。続いて出版された『穢れた聖地巡礼について』も図書館にありますよ。



流浪の月
 凧良ゆう 著
 東京創元社
 3階閲覧室
 913.6/NaYu



滅びの前の
 シャングリラ
 凧良ゆう 著
 中央公論新社
 3階閲覧室
 913.6/NaYu



穢れた聖地巡礼について
 背筋 著
 KADOKAWA
 1階学生選書コーナー
 913.6 S/Sesu



「葛野の鐘」は図書館の屋上にある鐘楼で、葛野の地に朝夕鳴り響いています。そこから、創刊時の図書館長が命名されました。



編集後記

図書館報「葛野の鐘」第33号をお届けします。ご寄稿いただきました皆様には、心より御礼申し上げます。

図書館がプチリニューアルされました！1階アクティブラーニングスペースのソファ席がリニューアルされ、新たに「くつろぎスペース」という場所が設けられました。勉強の合間の憩いの場所として活用していただけたらと思います。皆様が快適にご利用していただけるようなWell-Beingな図書館を目指して、これからも進化し続けていく図書館をどうぞよろしくお願い申し上げます。

図書館 HP



葛野の鐘 第33号 2026年4月発行
 京都光華大学図書館 ☎ 京都市右京区西京極葛野町 38
 ☎ (075)-325-5399 ✉ lib@mail.koka.ac.jp

図書館 X

